

【活動の主題】 校内ウイング「ぼかぼかルーム」の運営

【副題】 充実した安心できる居場所づくり

【学校名】 大津市立 木戸小学校

1 本校の概要

大津市北部に位置する児童数約 190 名の小規模校である。東には徒歩 3 分で到着する琵琶湖、西にはびわ湖バレイスキー場がある比良山系



に挟まれた自然豊かな環境である。校区も広く琵琶湖に沿って南北に走る JR 湖西線を利用して登校してくる児童は 30%を超えている。昨年度（令和 6 年度）に創立 150 周年を迎えた歴史ある学校で、志賀町が大津市と合併する前に、現在の校舎が新築された。造成の際に約三千年前の縄文時代の巨木のスギの根株が多く見つかると一部は県立琵琶湖博物館にも展示されている。

学校教育目標は「夢と志をもって生きる木戸っ子～進んで学ぼう・なかよく協力しあおう・明るくたくましい子～」とし、心の目標として「世界で一番心のあたたかい木戸小をめざそう」を掲げ教育活動に地域の皆さんに支えながら日々取り組んでいる。

2 取り組んだ内容

全国的にも、学校や教室に行きづらい子どもは増加している。本校においても例外ではない。大津市では以前より教育支援教室として各学校に「校内ウイング」を設置している。身近な学校に「校内ウイング」が設置されていることで、少しでも子どもたちが安心できる居場所が確保されるようになった。しかしながら、本校にも「校内ウイング（ぼかぼかルーム）」が設置はされているが、課題は残されたままである。利用者数は少ないが必要としている児童がいる限り、より心地よい環境整備を行うとともにより子どもに寄り添った運営ができるように改善を行った。

（1）環境設備

以前から使用してきた部屋は、相談室と PTA の会議室を兼ねた小部屋であった。スクールカウンセラーの面談や会議がある場合は優先的に使用されるので、別の部屋に移動する必要があった。そこで、新たに第二校内ウイングを整備することによ



って、時間を気にすることなく利用できるようになった。さらに衝立を用いることで複数名が利用する場合も、個人の空間を確保することやホワイトボードを利用しそれぞれの予定を見ることができている。これらにより、多くの教職員にも共有でき、子どもに関わる時間が増えると思われる。

（2）運営面

校内ウイング（ぼかぼかルーム）を利用する場合、教職員が対応する必要がある。本校は、小規模校であり教職員数が少なく、校内ウイングの加配もない。養護教諭や教務主任、管理職だけでなく、事務職員が対応に当たっている。この状況では、お互いに不都合が生じる恐れがあるので、保護者の承諾を得た後、地域や近隣の大学生のサポートを受けながら子どもを支援していくことで、丁寧な教育活動にもつながると思われる。



3 活動の成果

校内ウイング（ぼかぼかルーム）の利用者は、当初は 1 名で学校の欠席が多くあった。2 学期からは大学生の支援もあり登校日数も増え、大学生と一緒に教室で授業を受けることができるようになった。また、大学生が教室に入ることによって、支援を求める他の児童にも丁寧に対応ができ、担任と協力して授業を行うことができた。

そして、部屋を増設することで落ち着いて部屋を利用することができ、部屋の選択肢も増えた。2 学期からは他の利用者も増え、衝立を準備することにより複数で部屋を共有する体制を整えることができた。

